自己省察を促すためのラーニング・ポートフォリオ

―自らの学力を正しく自己評価できることを目標に―

群馬大学理工学部FD講演会
2017年6月6日（火）16:20～17:20
田中正弘（筑波大学）

目次

- ラーニング・ポートフォリオを導入する理由
- 学修のための評価
- 自己評価の小道具
- ラーニング・ポートフォリオの活用事例
- まとめ

ポートフォリオを導入する理由

- ラーニング・ポートフォリオを導入する理由
  - 建前
    - 能動的学習（アクティブ・ラーニング）の推進のため
  - 本音
    - AP申請書に導入計画を書いてしまったため
    - 中期目標・中期計画に導入を設定してしまったため
  - 授業でのポートフォリオの活用は，教員にとっても，学生にとっても，とても重い負担になる。

提案

- ラーニング・ポートフォリオの導入理由として，以下の提案をしたい。
- ポートフォリオの導入によって，学生の「自己省察」（何ができて，何がいまだにできないか，そして，これから何をすべきか）を促したい。
  - 自らの学力を正しく自己評価できる能力は，知識の陳腐化が早い21世紀を生き抜いていく上で必要な，「学び続ける力」につながるため。
  - ポートフォリオを自己省察に用いる上で，「学修のための評価」という考え方が重要となる。

学修のための評価

学修のための評価

- 学修のための評価とは，評価に関する情報を，学生の学習成果を高める目的に用いることを意味する。
  - 学修のための評価は，形成的評価と呼ばれる。
  - 総括的評価は，最終到達度を計るための評価である。
- 学修のための評価に必要な要素は，下記の通りである。
  - 科目の到達目標を学生が理解している。
  - 評価が学修の途中で行われる。
  - 評価の情報を学生に伝える。
  - 評価に学生も加わる。
  - 評価の情報を学びの改善に用いる。

出典：エスメ・グロワート著，鈴木秀幸訳（1999）「教員と子供のポートフォリオ評価」論創社。

科目の到達目標を学生が理解している

- 科目の到達目標を明確化する。
  - （例）学生は〇〇の知識を用いて，△△ができる。
- その到達目標を学生が理解する。
  - 到達目標は平易な記述を心がける。
  - ルーブリックなどの形で提示する。
  - 評価の情報を学生に伝える（意外と難しい）。

⇩

  - 到達目標を学生が正確に理解していない場合，自己評価に問題が生じる。

評価が学修の途中で行われる

- 学修のための評価は学修の途中で行う。
  - その評価の情報を学びの改善に用いるため。
- よって，教員は学生の学修プロセスを観察し，その状況を評価し，かつその結果を学生に適宜伝えていく必要がある。
  - 教員のフィードバックが不可欠といえる。
- 評価に学生も加わる。
  - 自己評価の指導が不可欠といえる。

評価の情報を学びの改善に用いる

- 自己評価を正しくできる学生は，自らの学びの利点・欠点を知ることができる。
- 自らの利点を伸ばしつつ，欠点を改める方法を自ら探求できるように指導することが，教員の重要な役割となった。
  - 自己評価を正しく行うための便利な「小道具」に，ルーブリックやラーニング・ポートフォリオがある。

自己評価の小道具

（ルーブリック・ポートフォリオ）

ルーブリックの定義

- ルーブリックの定義（文部科学省）
  - 米国で開発された学習評価の基準の作成方法で、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的評価に有用で、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化のメリットがある。

出典：中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」37頁。

ラーニング・ポートフォリオの定義

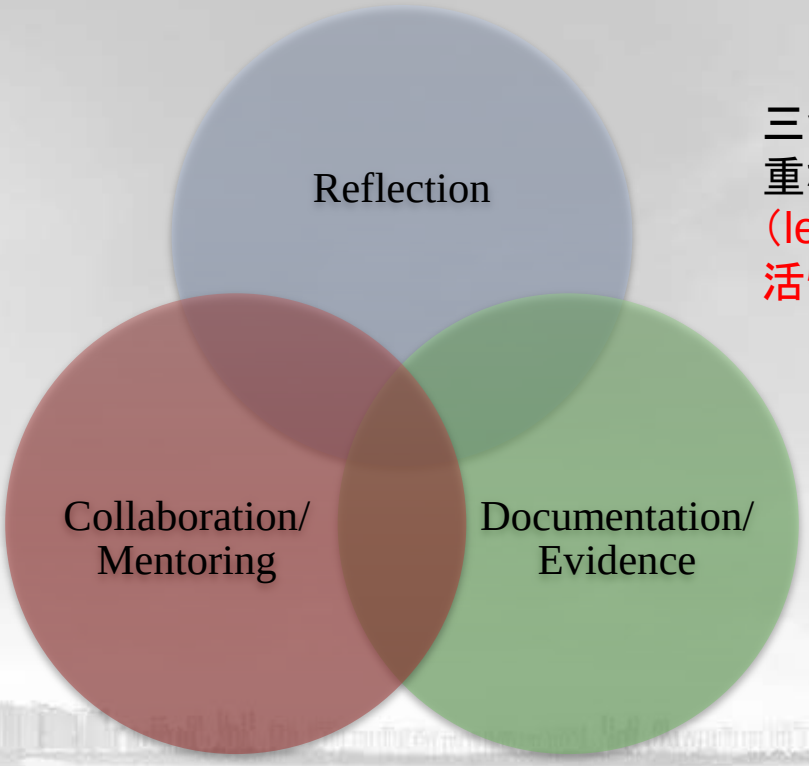
- ラーニング・ポートフォリオの定義（文部科学省）
  - 学生が、学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集し、記録したもので，それらを必要に応じて系統的に選択し、学習過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることによって、自律的な学修をより深化させることを目的とする。

出典：中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」38頁。

ラーニング・ポートフォリオの情報

- ラーニング・ポートフォリオには，その目的に応じて多様な情報が記載され，様々な形態が採用される。
- ズビザレタ（Zubizarreta 2009：23）によると，いかなる目的で作成する場合も，必ず含むべき要素がある。その要素とは，下記の三つである。
  - 「自己省察」（reflection）
  - 「証拠書類」（documentation）
  - 「同僚の助言」（collaboration）

ラーニング・ポートフォリオの概念図



三つの要素（円）が重なる箇所で学修（learning）が最も活性化される。

出典：Zubizarreta, John (2009) *The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning*, second edition, San Francisco: Jossey-Bass. 25頁。

自己省察に基づく自己評価

- 自己省察に基づく自己評価は，授業期間終了後だけでなく，授業期間中にも行うべきである。
- なぜなら，従来の学期末考査（到達度評価）では測れなかった学修過程を評価できるところに，ラーニング・ポートフォリオの利点があるためである。
- また，教員にとっては，学力が伸張した（到達目標を満たせた）理由をポートフォリオの自己評価の記述で判断できるという点が，特筆に値する（田中 2013）。

学修過程の評価の例（１）

- 弘前大学の科目「国際社会を考える（D）」において，医学部の学生が提出したポートフォリオによると，
  - 指定図書を読むことでも高い割合で学ぶことはできたが，講義を受け，先生の説明を聞くことで理解をより深めることができた。また，先生自身のフィードバックにより，他の学生の考え方を知ることで自分の考えと対比できた。これら二つの要因により，混沌とした自分の考えをまとめることができ，指定図書を読んだだけでは理解できなかったことが理解できた（金光 2009：225）。
- この学生は，自らの学力が伸びた理由を，自己評価で簡潔に説明できていることが分かる。

学修過程の評価の例（２）

- さらに，彼女は否定的な自己評価も書き添えている。
  - この授業の主体をなしているグループ・ディスカッションではあまり学ぶことはできなかった。これは，私自身がグループ・ディスカッションに積極的に参加できなかったことが要因である（金光 2009：225）。
- 自らの学力を正しく自己評価できた学生は，自らに残された課題を見つけられている。従って，自主的な学修で自らの学力を伸ばせる学生だと期待できる。
  - ポートフォリオは，このような学生を高く評価できる。
- また，学生にとっての反省点（否定的な自己評価）は，教員にとっての反省点（今後の課題）にもなる。

意図せざる望ましい学修成果

- ラーニング・ポートフォリオで，意図せざる望ましい学修成果を発見することもできる。たとえば，先述の授業で，教育学部の学生が提出したポートフォリオに，以下の記述がある。
  - この授業では，毎回図書館に行って指定図書を読み，課題を行ってから授業に参加することが求められていたので，毎週図書館に行くことが習慣となった。そのことは，なかなか図書館に足を運ぶ機会のなかった私にとって図書館をより身近なものにしてくれた（岡本 2009：233）。
- この学修成果は，授業の到達目標に書かれていないものであるが，大学生にとって，身につけるべき重要な学修態度の一つであろう。

ラーニング・ポートフォリオの活用事例
（弘前大学）

ポートフォリオの活用事例

- 弘前大学では，教員ごとの独自の工夫として，ラーニング・ポートフォリオが活用されてきたが，組織全体の取り組みではなかった。
- 平成25年度から，初年次生を対象とした全学必修科目である「基礎ゼミナール」で，学生に自らの学習記録（ラーニング・ポートフォリオ）を作成させることとなった。
- 基礎ゼミが選ばれたのは，「大学における自立した学びへの導入」を行う初年次科目に位置づけられているためである。
  - 加えて，ポートフォリオの作成によって，入学直後に能動的な学修を促すことが，その後の自立した学びの契機になると期待されたからである。

シラバスの微修正

- 導入にあたって，シラバスの微修正が行われた。
  - 【基礎ゼミナールの概要】の項目に，「自らの学習記録（ラーニング・ポートフォリオ）を作成します」という文言を加えた。
  - ポートフォリオの評価を直に点数化する案は見送られたものの，【成績評価で重視されることがら】の項目に，「準備学習の状況など」の表現を加えて，ラーニング・ポートフォリオの作成状況を成績評価に含める可能性を示唆した。
  - 最後の項目である【みなさんへのメッセージ】において，自ら能動的に授業に加わり課外で学習するという，積極的な姿勢を養う「一つの手法として，自らの学習記録（ラーニング・ポートフォリオ）を作成し，自己省察の材料とします」という教員の期待を書き添えた。

ポートフォリオの様式案（叩き台）

- ラーニング・ポートフォリオの様式案（叩き台）は，３つ提案された。ポートフォリオはその目的に応じて，下記の３種類に分けられると考えたからである。

① 科目の達成目標の到達度を適宜，自己評価させるもの
② 各回の授業内容を踏まえて，学修したことを振りかえさせるもの
③ 授業で出された課題の解答や発表の内容，絵画などの作品を記録するもの

  – この分類に応じた様式案は別紙（その１，その２，その３）の通りである。

ポートフォリオの叩き台（その１）

- ①「科目の達成目標の到達度を適宜，自己評価させるもの」に対応したラーニング・ポートフォリオの様式案では，基礎ゼミのシラバスに記載されている６つの到達目標が左端の欄に並べられ，それぞれ中間評価と事後評価を記入する欄も設けられた。
- 学生の自己省察を深める工夫として，「どの項目が自分の最も良い成果ですか？　それはなぜですか？」などの質問に回答する欄を設けた。
  - これらの質問を付加することは，ラーニング・ポートフォリオ研究の第一人者である，サスキー（Suskie 2009: 207）が推奨していることである。

ポートフォリオ（基礎ゼミ）

１）自主的な学習態度を獲得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
２）課題発見能力を高めること	事前評価
	中間評価
	事後評価
３）資料（情報）の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
４）基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
５）学生と担当教員，および学生相互におけるコミュニケーションの場を作りだすこと	事前評価
	中間評価
	事後評価
６）安全で健康的な学生生活を送るための基礎知識を習得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
７）下記の質問から，二つ選び，回答してください。 A)　どの項目が自分の最も良い成果ですか？　それはなぜですか？ B)　どの項目が自分の最も重要な成果ですか？　それはなぜですか？ C)　どの項目が自分の最も満足な成果ですか？　それはなぜですか？ D)　どの項目が自分の最も不満足な成果ですか？　それはなぜですか？ E)　どの項目への取組が自分を最も成長させましたか？　それはなぜですか？	

ルーブリックの作成

- 自己省察の評価基準となるルーブリックの作成作業において，最初に，個々の達成目標に応じて身に付けるべき要素を書き出した。
- 次に，これらの要素の評価方法を思案した。
  - 各要素を，それぞれどの程度身に付けたかで点数化する方法もあるが，学生の自己評価の基準としては自己肯定感・否定感に大きく左右されると考えたことから，今回は全ての要素を身に付けた場合に４点を与え，要素が減るごとに点数が減るという，５段階の評価基準で達成度を表現した。

ルーブリック（基礎ゼミ）

評価（尺度） 達成目標	4	3	2	1	0
１）自主的な学習態度を獲得すること	授業内容や，関連する新たな知識や技能に対して興味・関心を持ち，常に自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち，常に自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち，時々自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持つものの，あまり自主的に学ぶことができない。	自主的に学ぶことが全くできない。
２）課題発見能力を高めること	重要度の高い新たな課題を発見し，その課題解決のために，具体的な作業計画を立て，かつ実行できる。	新たな課題を発見し，その課題解決のために，具体的な作業計画を立て，かつ実行できる。	新たな課題を発見し，その課題解決のために，具体的な作業計画を立てられるが，実行できない。	新たな課題を発見できるが，その課題解決のために，具体的な作業計画を立てることができない。	新たな課題を発見できない。
３）資料（情報）の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得すること	必要かつ信用できる情報を適切な方法で収集し，多くの人が活用しやすい内容に整理できる。	必要かつ信用できる情報を適切な方法で収集し，自分が活用しやすい内容に整理できる。	必要かつ信用できる情報を適切な方法で収集できるが，活用しやすい内容に整理できない。	必要な情報を適切な方法で収集できるが，信用できない内容も含まれている。	必要な情報を適切な方法で収集できない。
４）基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に，かつ分かりやすく説明でき，批判に対して反論もできる。	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に，かつ分かりやすく説明できるが，批判に対して反論できない。	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に説明できるが，分かりにくい点が多い。	自らの考えをレポートや口頭発表で説明できるが，不正確な内容が多い。	自らの考えをレポートや口頭発表で説明できない。
５）学生相互において，自分の意見を伝えられる基礎的なコミュニケーション能力を獲得すること	他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自らの意見を述べ，建設的な議論を構築できる。	他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自らの意見を述べられるが，建設的な議論を構築できない。	他の人の意見を聞き，その内容を理解できるが，積極的に自らの意見を述べられない。	他の人の意見を聞き，その内容を理解できるが，自らの意見を述べられない。	他の人の意見を聞くことができない。
６）安全で健康的な学生生活を送るための基礎知識を習得すること	社会のルールやマナーを理解し，遵守した上で，規則的な生活習慣を継続的に実施し，自らが模範となれる。	社会のルールやマナーを理解し，遵守した上で，規則的な生活習慣を継続的に実施できる。	社会のルールやマナーを理解し，遵守した上で，規則的な生活習慣を断続的ながら実施できる。	社会のルールやマナーを理解し，遵守するものの，規則的な生活習慣を実施できない。	社会のルールやマナーを守らない。

叩き台（その２）の採用

- ２１世紀教育センター教務専門委員会における議論の結果，②の案が採用された。
- その理由として，
  - ②に類するものを作成させた経験のある教員が多くいたのに対し，ルーブリックを活用する①は発想が新しすぎて，次年度に全授業で一斉に実施するのは困難であると判断したためである。
- なお，②の案に修正を加えたものが活用された。

まとめ

まとめ

- 学生が多くの知識を吸収し，その知識を適切に活用できることは大変重要である。
  - よって，ペーパーテストで知識の量と質を計る，総括的評価は必要不可欠といえる。
  - とはいえ，知識の陳腐化が早い現在において，自ら学び続ける主体的な学習態度は生きる力として欠かせなくなった。
  - 主体的な学修を効率化するには，正しい自己評価（何ができて，何ができないので，何をすべきかを理解できること）が求められる。
- 従って，学修のための評価の定着が，学士課程全体を通して期待されている。

INDUSTRY
AUTOMOTIVE

ご清聴ありがとうございました。

AUTOMOTIVE

参考文献

- エスメ・グロワート著，鈴木秀幸訳（1999）「教員と子供のポートフォリオ評価」論創社。
- 中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」
- 金光綾香（2009）「ラーニング・ポートフォリオ～授業を通じて得たこと・考えたこと～」土持ゲーリー法一（2009）『ラーニング・ポートフォリオ 学習改善の秘訣』東信堂，224-226頁。
- 岡本美里（2009）「ラーニング・ポートフォリオ～『国際社会を考える（D）』を通して～」土持ゲーリー法一（2009）『ラーニング・ポートフォリオ 学習改善の秘訣』東信堂，230-234頁。
- Suskie, Linda (2009) Assessing Student Learning: A Common Sense Guide, second edition, San Francisco: Jossey-Bass.
- 田中正弘（2013）「ラーニング・ポートフォリオ（学修業績記録）とは」『文部科学教育通信』2013年4月22日号，30-32頁。
- Zubizarreta, John (2009) The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning, second edition, San Francisco: Jossey-Bass.